

2022年11月7日  
株式会社三菱UFJ銀行

## 豊田通商株式会社と「グリーンローン」を成約

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 半沢 淳一、以下「当行」）は、豊田通商株式会社（取締役社長 貸谷 伊知郎、以下「同社」）との間で、再生可能エネルギー事業の拡大に向けた事業資金を資金使途とした「グリーンローン」によるタームローン契約（以下「本ローン」）を締結いたしました。

本調達資金の資金使途は、同社のグリーンファイナンス・フレームワークに基づいて、十分な環境改善効果が見込まれ、且つ、環境面における潜在的なネガティブな環境への配慮がなされているプロジェクトとしての確認がなされたものです。同社のグリーンファイナンス・フレームワークは、Sustainalytics より、グリーンボンド原則及びグリーンローン原則との適合性に対する外部評価（セカンドパーティ・オピニオン）を取得しています。

同社は、1948年に設立され、2022年で創立74年を迎えました。現在、同社グループでは、「金属」「グローバル部品・ロジスティクス」「自動車」「機械・エネルギー・プラントプロジェクト」「化学品・エレクトロニクス」「食料・生活産業」「アフリカ」の7営業本部に関係する事業を有し、総合商社である同社及び海外の主要現地法人を中心として、多岐にわたる商品の売買取引をはじめ取引に関連する商品の製造や加工、事業投資、各種サービスの提供など、幅広い事業を展開しています。現在、「次の新しいステージ」へ踏み出し、真のグローバル企業に向かって同社ならではの価値創造とさらなる成長を追求しています。

同社にとってのサステナビリティは、「経営そのもの」であり、グループの存在意義とあるべき姿を示し、経営に取り組む意志を明らかにした「企業理念」を実現する中で、環境や社会を前提条件としながら経済的価値を創出し、同社グループが社会と共に持続的に成長し続けることと定義しています。同社ではこのサステナビリティ経営の中で、優先的に取り組んでいくものとして、サステナビリティ重要課題（マテリアリティ）を特定しています。この「6つのマテリアリティ」を中心に、さまざまな社会課題に取り組み、同社の「Global Vision」で「ありたい姿」として掲げた「Be the Right ONE（“代替不可能・唯一無二”の存在）」になることで企業理念の実現を目指しています。

### <本ローンの概要>

契約締結日	2022年11月7日
借入人	豊田通商株式会社
貸出人	株式会社三菱UFJ銀行
資金使途	再生可能エネルギー事業に係る設備投資（CAPEX）、運営費用（OPEX）、及び投資（Investments）



『未来の子どもたちへ、より良い地球環境を届ける』

◆同社グリーンファイナンス・フレームワークについては以下をご参照ください。

<https://www.toyota-tsusho.com/sustainability/environment/greenfinance.html>

◆Sustainalytics の評価については以下をご参照ください。

[https://www.toyota-tsusho.com/press/upload\\_files/greenfinance\\_spo\\_jp.pdf](https://www.toyota-tsusho.com/press/upload_files/greenfinance_spo_jp.pdf)

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループは、「MUFG Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義（パーパス）と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めています。引き続き、お客さまの ESG の取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

以 上